

倉吉市名誉市民

大坂弘道

生年月日 昭和12年2月20日生

出身地 倉吉市下古川

業績

昭和48年、第13回伝統工芸新作展に《神代杉砂磨箱》を出品し、東京都教育委員会賞受賞。

昭和49年、第14回伝統工芸新作展に《柘造刳短冊箱》を出品し、日本工芸会東京支部賞受賞。

昭和53年、第25回日本伝統工芸展に《朴木菱形木画箱》を出品し、文部大臣賞受賞。

昭和54年、第26回日本伝統工芸展に《菱形木画箱》を出品し、日本工芸会総裁賞受賞。

昭和55年、宮内庁より正倉院宝物復元模造を委嘱される。

昭和61年、《紫檀木画箱》を復元し、正倉院に納める。

昭和62年、第34回日本伝統工芸展に《紅木紫檀八角経筒》を出品し、保持者選賞受賞。

平成3年、第31回伝統工芸新作展に《黒柿印匣》を出品、宮内庁買い上げ。

平成9年、重要無形文化財「木工芸」の保持者（人間国宝）に認定される。

平成9年、倉吉市市民栄誉賞受賞。

平成10年、紫綬褒章受章。

平成11年、伯耆いきいきライフカレッジで「匠の技と知恵」と題し講演。

平成24年、練馬区立美術館で「人間国宝 大坂弘道展」開催。

平成26年、倉吉博物館で「人間国宝 大坂弘道展 正倉院から華開いた木の物語」が開催され、新作を含め72点もの作品が展示される。会期中には、記念講演会や小学生のための作品解説会を行い、市民に分かりやすく作品を伝えた。また、倉吉市に作品10点と関連資料を寄贈。

倉吉市名誉市民一覧表

氏名／生年月日	決定／表彰年月日	叙勲又は褒章	主要経歴
故 磯野長蔵 明治7年3月12日 (昭和42年没) いそのちょうぞう	昭和53年9月11日 昭和53年10月1日	従四位勲三等 瑞宝章	麒麟麦酒株式会社創始者 昭和28年人材育成事業基金として本市へ300万円寄附され、財団法人三松奨学育英会が設立される。 昭和38年には更に700万円を追加寄附され本市育英事業の発展に貢献
故 菅 楯彦 明治11年3月4日 (昭和38年没) すがたてひこ	昭和53年9月11日 昭和53年10月1日	従五位勲四等 瑞宝章	昭和5年倉吉の山陰公民学校建設資金として数十枚の力作を寄贈 昭和24年大阪府文芸賞、昭和33年芸術院恩賜賞、昭和37年大阪市名誉市民の称号などを受ける。
故 倉繁良逸 明治21年12月6日 (昭和40年没) くらしげりょういつ	昭和53年9月11日 昭和53年10月1日	従五位勲四等 瑞宝章	鳥取県信用農業協同組合連合会初代会長 西郷村議員2期 鳥取県監査委員 鳥取県社会福祉協議会会長 昭和3年全国初の総合病院創設
故 早川忠篤 明治40年8月18日 (昭和44年没) はやかわただあつ	昭和53年9月11日 昭和53年10月1日	従五位勲四等 瑞宝章	昭和8年から同26年まで倉吉町議会議員 昭和22年から同26年まで県議会議員 昭和26年から同28年まで倉吉町長 昭和28年市制施行以来同43年まで連続4期市長
故 小谷善高 明治40年11月15日 (昭和57年没) こだによしたか	昭和57年3月7日	正五位勲三等 瑞宝章	昭和22年から同28年まで西郷村長 昭和30年から同42年まで県議会議員 その間副議長歴任 昭和43年4月26日から同57年2月19日まで倉吉市長
故 石谷文海 大正4年1月3日 (平成5年没) いしたにぶんかい	平成15年10月1日		石谷精華堂二代目社長 倉吉市への寄附総額 約166百万円
佐渡ヶ嶽慶兼 昭和15年11月26日 62歳 (平成19年没) さどがたけよしかね	平成15年10月1日		元 横綱 琴櫻 現 (財)日本相撲協会理事 事業部長 成績 幕内優勝 5回 殊勲賞 4回 敢闘賞 2回
故 牧田 實夫 大正8年11月18日 (91歳) (平成23年7月23日没) まきたじつお	平成23年12月5日	褒章 藍綬褒章 (昭和53年11月) 叙勲 勲三等瑞宝章(平成2年11月) 叙位 正五位(平成23年7月)	倉吉町議会議員(昭和26年4月～昭和28年9月) 倉吉市議会議員(昭和28年10月～昭和46年3月) 議長(昭和40年10月～昭和44年10月) 副議長(昭和36年10月～昭和38年12月) 鳥取県議会議員(昭和46年4月～昭和57年3月) 倉吉市長 (昭和57年4月～平成2年4月)
大坂 弘道 昭和12年2月20日 78歳 おおさかひろみち	平成27年6月24日	紫綬褒章	昭和55年 宮内庁が正倉院宝物復元模造を委嘱 平成9年 重要無形文化財「木工芸」の保持者(人間国宝)に認定される 平成9年 倉吉市市民栄誉賞受賞 平成10年 紫綬褒章受章 平成26年 倉吉博物館で人間国宝 大坂弘道展開催